

---

## デジタルパンク通信 第十四話

---

Q プロでしょうか、しろうとでしょうか。

A しろうとです。

そやからそれはもう前にお話したやないですか。CDがケータイに負けて、こづかい巻き上げられてる。プロの作品、しろうとのおしゃべりに負けてる。もう勝負ついてまんねん。しろうとのしゃべくりちゅうのは、今んとこ、コンテンツとしてはぜ二取れまへんけど、その周りでぎょうさんカネが動いてまんやがな。

ただまあビジネスはしょせんビジネスですわ。ネットのヒトとしゃべってますと、B to CとかB to Bとか、新しい言葉出てきて、カッコよろしわ。そんなん大したことおまへんで。しょせん営業の改善とか銭勘定の手法ですわ。要するに商売のやり方でんがな。

ほんでも、NapsterとかGnutellaとか、ファイル交換するソフト現れてから、P to Pで言葉はやりはじめましたな。P to Pいうんは、一人ひとりのコンピュータが対等につながって、アイデアやりとりすることですけど、これは大したことありませ。本質的な問題でっせ。

これも前にお話したことですわ。P to Pで、ネットは道路から広場になります。誰かが作ったコンテンツをタダで聞くための手段やのうて、ワシの音とアンタの音、組み合わせせてセッションするための環境になるということです。作り手だけが参加できるコミュニティになるんです。革命、ここから始まりまんねん。

ほならですよ、コンテンツは、これまでみたいに、一人の天才が作るんやのうて、みんなで作りながら聴きながら、いう具合になっていくんかもしれまへんな。ほならですよ、ええコンテンツが生まれるかどうかは、みんなの能力ということになる。大衆の表現力しだい、ということになるやおまへんか。

日本はその点、けっこうイケてませ。鍛えてまっさかいな。おっさん電車中で必死こいてマンガよんでます。おばはん屋メシも作らんとからに商店街集まってカラオケしてます。そいつらのガキいうたらシコシコひきこもってゲームですわ。総がかりの国民訓練ですわな。アメリカ、たしかに一握りのプロはすごい思いますけど、フツーのおっさんおばはんガキどもて、大したことおまへんさかいな。

いやそらアメリカさんは大したもんでっせ。知ってませ。90年代、デジタルで世界を征服しましたからな。世界征服いうたらマグマ大使のゴア様も人間モドキもできまへんだのにな。クリントンのゴア様はやりましたもんな。数え直しは失敗しましたけどな。

ほんでも、これからもコンテンツでアメリカさんがリードしていけるかどうか、わからんで、ということすわ。コンテンツだけやおまへん。パソコンかて、アメリカが発明してきましたけど、これからはケータイやらウェアラブルやらロボットやら何やら、日本お得意の改良、になってきますし。ネットワークかて、アメリカは電話線のインターネットで先行しましたけど、ケータイとか光ファイバーとかはさっぱりワヤでっさかい、ネット後進国になるかもしれまへんねん。

日本のしろうと衆が世界のデジタルをリードしてってやらんとどんならんのち

やいまっか。

---